

令和5年度 第3回上越市スポーツ推進審議会

次 第

日時 令和6年3月26日（火）10時00分から

場所 ワークパル上越 視聴覚室

1 開 会

2 あいさつ

上越市スポーツ推進審議会委員長 土田 了輔

3 報告事項

- (1) 令和5年度 「学校における部活動改革」の進捗状況について …資料1
- (2) 令和5年度 「地域における子どもたちのスポーツ活動の環境整備」の進捗状況について …資料2

4 議 題

- (1) 第3次総合教育プランに基づく令和5年度のスポーツ施策の実施状況について …資料3
- (2) 上越市第3次教育総合プランの実施に係る令和6年度施策の概要について …資料4

5 そ の 他

6 閉 会

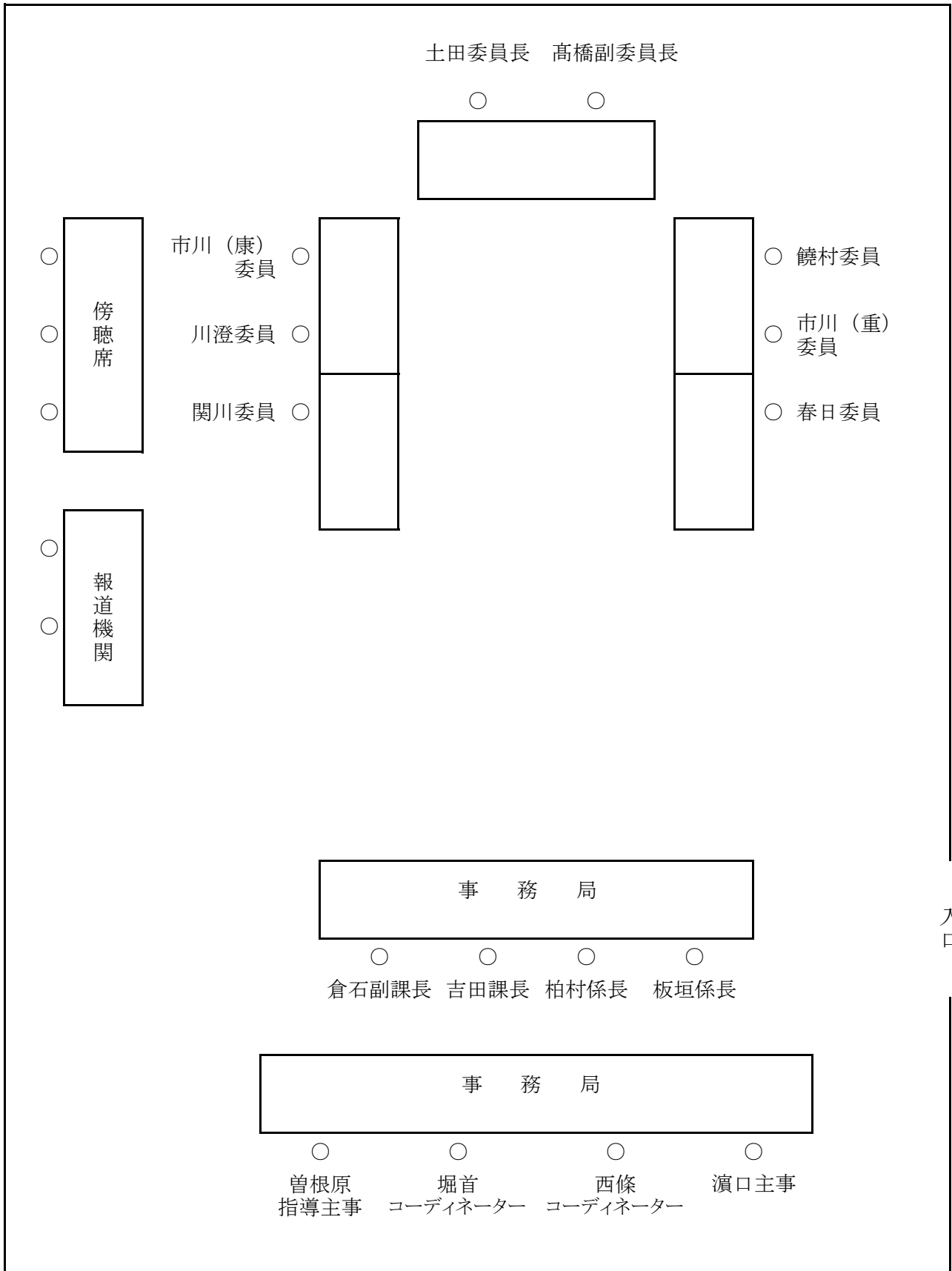
令和5年度第3回上越市スポーツ推進審議会参加者名簿

(敬称略)

No	役 職	氏 名	備	考
			選 出 母 体	出 欠
1	委員長	土 田 了 輔	国立大学法人上越教育大学	○
2	副委員長	高 橋 正 弘	一般財団法人上越市スポーツ協会	○
3	委員	山 田 喜 昭	新潟県高等学校体育連盟	×
4	委員	福 田 功	新潟県特別支援学校長会	×
5	委員	相 澤 顕	上越市中学校長会	×
6	委員	饒 村 泰 世	上越市小学校長会	○
7	委員	熊 木 博 幸	上越バレーボール協会	×
8	委員	市 川 重 雄	上越市バスケットボール協会	○
9	委員	春 日 清 美	上越市レクリエーション協会	○
10	委員	國 弘 泰 昌	上越市スポーツ少年団	×
11	委員	市 川 康 男	上越SCネット	○
12	委員	川 澄 陽 子	上越市身体障害者連絡協議会	○
13	委員	関 川 信 之	上越市スポーツ推進委員会会議	○
14	委員	飯 塚 正 男	正和株式会社	×
15	担当課長	吉 田 正 典	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
16	担当副課長	倉 石 義 宏	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
17	施設係長	板 垣 誠	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
18	企画推進係長	柏 村 智 之	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
19	指導主事	曾 根 原 至	上越市教育委員会学校教育課	○
20	主事	濱 口 耕 介	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
21	生涯スポーツ指導員	佐 久 間 俊 明	上越市教育委員会スポーツ推進課	×
22	地域クラブコーディネーター	堀 首 有 菜	上越市教育委員会スポーツ推進課	○
22	地域クラブコーディネーター	西 條 玲	上越市教育委員会スポーツ推進課	○

令和5年度 第3回スポーツ推進審議会 座席表

ワークパル上越 視聴覚室



1 第3回学校部会・スポーツ作業部会の実施 (令和5年11月20日)

【主な意見】

①休日の部活動について

- ・今年度、保護者会や地域クラブとして活動を行っている部について、保護者等から申し合わせ日数を超えているのではないかという問い合わせがあった。(中学校)
- ・来年度、新潟県で全中大会があり、勝負をかけている部活動がある。このような部の保護者会の活動もある。一方で、休日に子どもの要望に応える形で活動する保護者会もある。(中学校)
- ・保護者会の活動は、自校の中学校の生徒に限定せず、範囲を拡大、発展させる見通しが必要だと考える。(学校教育課)
- ・今後、休日の実施を減らすことに伴い、休日開催される冠大会(協会等主催)の参加について整理する必要がある。(中学校)

②平日の部活動について

- ・現在、週3日(火、水、金)で実施する学校が多い。今後は、以前のクラブ活動のように体力の向上や親しむなどの目的になっていくことがよいのではないかと。(中学校)
- ・部活動で「強くする」といった目標を止めることを前提に、地域クラブは、志向に合わせた活動、競技力向上を目指した活動など、はっきり分けた中で考える必要がある。(SCネット)
- ・競技団体の話を踏まえると、今後、休日の実施がなくなっても、平日があれば子どもたちの活動の流動は起きづらい。(スポーツ推進課)
- ・地域クラブフェアでは、小学生の保護者が、平日部活動の方針を知りたいことが分かった。情報発信が必要である。(スポーツ推進課)

③その他

- ・妙高市、糸魚川市と話をしている。教職員の兼職兼業に期待するが、地域や学校の枠にとらわれない指導者も必要である。レクリエーション的な活動なども含め、子どもたちのニーズに応えたい。小学生も含め地域クラブの周知を図りたい。(スポーツ推進課)
- ・高校のスポーツ推薦について保護者から問い合わせがある。(PTA)
- ・全国の研究会に参加し、国の動向を注視する必要があると思った。(スポーツ協会)

2 上越市部活動指導ガイドラインの改定

- 休日部活動の平均実施日数及び推移 () は R4

	運動部	文化部	吹奏楽部
令和5年 4月-6月 *休日 29日	7.9 (13.4)	1.2 (2.4)	7.2 (12.8)
令和5年 7月-9月 *休日 30日	5.9 (10.4)	1.6 (2.4)	7.3 (11.1)
令和5年 10月-12月 *休日 30日	3.7 (13.8)	1.4 (2.7)	5.1 (11.6)

3 教員の兼職兼業

- 市教委が承認した兼職兼業は2件（令和5年11月～令和6年1月）であった。
 - （内訳） ・ 上越水泳協会（指導者）中学校教諭1人
 - ・ J-cowboy バスケットボールクラブ（指導者）中学校教諭1人
- 合計11人となった。

4 その他

北信越市長会 要望議案の提出（学校教育課、スポーツ推進課、社会教育課、文化振興課）

- ・ 生活困窮者への支援と財政措置
- ・ 送迎等の移動にかかる支援と財政措置
- ・ 地域移行により不要となる経費を含めた地域移行に必要な経費の財政措置

今後の部活動改革

1 休日の実施日数について

- ・ 令和6年 → 0～15日
- ・ 令和7年 → 0～10日
- ・ 令和8年 → 0日

2 平日の部活動について

- ・ 現在、ほとんどの市立中学校において3日または4日程度実施している。
- ・ 他の自治体の動向を注視し、今後検討する。

（参考）

- ・ 新潟市：令和8年度以降について、「平日の部活動を行う場合は、原則、教職員の勤務時間内で行う。」としている。

3 部活動指導ガイドラインの一部改定について 別紙

上越市部活動指導ガイドライン

上越市教育委員会 学校教育課

1 部活動指導ガイドラインの作成の趣旨

学校における部活動は、教育課程外の教育活動であるが、「部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」であり、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるように留意すること。」として学習指導要領で示している。【中学校学習指導要領(平成29年3月)第1章総則 第5 学校運営上の留意事項】

運動部は、スポーツに親しみ、体力の向上や健康の増進を図るだけでなく、互いに競い、励まし、協力する中で、友情を深め、フェアプレイの精神を学ぶ場となっている。また、文化部~~等~~は、文化芸術や科学等に親しみ、自らを高め、仲間と共に発表や表現をすることにより、達成感を得たり自己肯定感を高めたりする場となっている。~~育んだりしている~~。こうした部活動は、保護者や地域からも、児童生徒の社会性を育成する場として期待されるとともに、生涯に渡って、スポーツや文化芸術等に親しむ基礎を育むといった重要な役割を果たしている。

しかしながら、少子化の進行により、従前の運営体制では部活動の維持が難しくなっており、学校や地域によっては存続の危機にある。

こうした中、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を平成30年3月に策定・公表し、その中で、都道府県に対し、運動部活動の活動時間及び休養日の設定、その他適切な運動部活動の取組に関する「運動部活動の在り方に関する方針」を策定するよう求めている。

また、各市町村教育委員会に対し、都道府県の「運動部活動の在り方に係る方針」を参考に、「設置する学校に係る部活動の方針」を作成し、その適切な運用を求めている。

そこで、上越市では、部活動が、今後とも生徒にとってより効果的な活動となるように「部活動指導ガイドライン」を総合的な指針として示し運用することとした。

今後も上越市内各中学校が本指針の趣旨を踏まえた取組を進め、部活動の目的を達成することを期待したい。

2 上越市立中学校における部活動の目的

生徒の心身共に健やかな成長を図ることは、学校のみならず地域社会の願いでもある。この願いを実現するために家庭・地域の理解と支援が必要であり、社会教育施設や社会教育関係団体等での活動の時間、部活動の時間、家庭学習の時間、家族と共に過ごす時間などバランスの取れた時間を確保することにより、心身ともに健やかな成長を図ることが求められる。

上越市の学校教育目標を受け、上越市の中学校の部活動は、次の2点を目的としている。

(1) 社会性を伸長し、豊かな心を育成する

異年齢との交流の中で好ましい人間関係を築き、互いに支え合い、高め合うなどの社会性を伸長し、豊かな心を育成する。

(2) 自律性を伸長し、健康な心身を育成する

~~めあて目標~~をもちその達成に向けて取り組むことを通して、自律性を伸ばすとともに、健康な心身を育成する。

3 上越市立中学校における部活動の運営上の留意点

上越市内の学校における部活動では、競技力向上や大会結果(上位大会出場等)を強く求めるものではなく、「生徒の自主的、自発的な参加による活動を通してバランスの取れた健全な成長を目指す」という本来の意義を踏まえ、生徒の生きる力の育成や豊かな学校生活の実現が図られることを期待するものである。従って、各学校においては教育課程との関連を図り、生徒はもとより教員のライフワークバランスが図られるように保護者や地域、外部指導者、地域のスポーツ団体から理解と協力を得ながら改善していく必要がある。

(1) 生徒の健全な成長の促進

スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲や責任感、連帯感の涵養等に資することが、学校における部活動の目指すところである。この趣旨については、生徒並びに保護者や地域に対し継続的に周知することが大切である。また、指導に際しては、心身のバランスの取れた成長を目指し、休養日を適切に設けるなど過度の指導や練習を行わないようにする。

(2) 生徒の自主的、自発的な参加による部活動

希望制による自主的、自発的な参加を促進することを基本とする。

(3) 教員のワークライフバランスの実現

長時間勤務の改善を図るために、学校長の指導の下、休養日を明確にした年間や月間の活動計画を作成して生徒や保護者に提示する。一方、一つの部活動に複数の顧問の体制が組めるように部活動の数の削減に取り組み、生徒や保護者、地域に意向を示し、理解と協力を得ていくことが肝要である。

複数顧問制による部活動指導を分担することで、日々の部活動指導の負担軽減を図り、校務分掌業務や教材研究等の時間を確保する。

4 適切な運営のために

(1) 適切な休養日・活動時間の設定

〈休養日の設定〉

○週当たり3日以上(平日1日以上、週休日等)の休養日を設けることを原則とする。(令和5年度からの3年間は可能な範囲で実施する。)

○平日の休養日には、特別活動(生徒会や学級活動)等の時間を確保することが望ましい。

○大会や強化練習会等で週休日を休養日とすることができない場合は、年間の中で振り替える。

○長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じる。また、夏季休業中においては、お盆の期間である13・14・15・16日、冬季休業中においては、閉庁となる12月29日から1月3日の間は休養期間とすることが望ましい。

〈活動時間の設定〉

以下に示す活動時間は、用具の準備時間及び片付けの時間を含む。

○一日の活動時間は、朝練習を含めて長くとも2時間以内で練習を終えることを原則とする。

(2) 年間を見通した活動のための年間活動計画(案)の作成等について

生徒が部活動以外の多様な活動を計画的に実施したり、教員がワークライフバランスの実現を図ったりする必要がある。そこで、上記の休養日の設定等を踏まえ、部活動顧問は、年度当

初に年間を見通した活動計画(案)を作成し、教員・生徒・保護者に配布し、説明して理解を得る。

校長は、部活動に係る活動方針及び全ての部活動顧問が作成した年間活動計画(案)を精査し、休養日が適切に設定されているか確認して、必要に応じて指導する。また、校長は毎月の実施状況を把握し、「部活動活動状況調査」にまとめ、定期的に教育委員会学校教育課長に提出する。8月、10月、1月、4月の年4回。書式は県保健体育課が示すものとする。

5 適切な部活動指導の在り方について

部活動指導を通して、生徒が心身ともに健やかな成長を図り、社会性や豊かな心、自己肯定感などを一層高めていくことが真の目的である。この目的の達成のためには、校内での指導や指導体制について共通理解を図るとともに、保護者の理解と地域社会の支援・協力体制を構築していくことが必要である。また、効果的な指導や事故防止等に留意せねばならない。校長は、各部署で生徒・保護者に毎月配付している「月間活動予定表」と「部活動活動状況調査」を併用して点検し、部顧問の負担軽減を図ること。

(1) 指導体制

校長のリーダーシップの下、教員の負担軽減の観点から組織的な運営が行われるように、学校部活動の運営や方針等を教育計画に位置付ける。また、部活動が学校教育の一環として行われることから、各活動の運営や指導が部活動顧問の教員に任せきりにならないようにすることが大切である。

部活動顧問の教員の状況や生徒のニーズによっては、外部指導者からの技術指導を受ける場合がある。その際、学校全体の方針や各部活動の目標・計画、生徒の状況について**外部指導者**と十分に共通理解を図っておくことが大切である。

(2) 効果的な指導

年間の活動や日々の運営や指導の在り方について、校長が適切に指導する。部活動の顧問等の間で指導についての情報を共有したり、効果的な指導について外部からの指導者を招請したりして学ぶことが必要である。なお、保護者や地域に対しても学校全体の方針や各部活動の目標等や計画等の情報を発信し、理解を得ることが重要である。

(3) 事故防止

部活動の指導においては、生徒の安全・安心の確保を最優先する。施設や器具等の安全確認や生徒一人一人の健康状況に配慮し、気温等に配慮した水分補給、突風や雷などの気候変動に応じた練習時間や**活動場所**、内容等にも留意する。

活動中の事故が発生した場合の対応について、マニュアルを作成し部活動顧問はもちろんのこと全職員が的確に対応できるようにする。

(4) 体罰の禁止

学校教育法 11 条に体罰の禁止が明確に示されている。指導と称しての身体に対する殴る・蹴る等の行為や肉体的苦痛を与えることだけでなく、生徒の人間性や人格の尊厳を否定するような発言や行為も許されない。体罰等は、直接受けた生徒のみならず、その場に居合わせ目撃した生徒の後の人生においても精神的な影響を及ぼす可能性がある。また、パワーハラスメントと判断される言動やセクシュアルハラスメントと判断される発言や行為等のない指導を徹底する。

6 部活動を支える環境整備

生徒数の減少や専門の指導者の不足等の状況を考慮し、学校教育の一環として可能な限り生徒のニーズに応え、適切な部活動運営を図る環境の構築に努める必要がある。

(1) スポーツ活動サポート事業

運動部活動において、専門的な技術指導を必要とする学校が外部指導者を招請する場合、その指導料を援助する。

(2) 部活動指導員の派遣

単独で部活動における練習や練習試合、大会における指導及び引率、部活動の運営に関する助言を行うことが可能な部活動指導員を配置する。

[配置の考え方]

顧問が複数配置されていない部がある学校や、部活動指導員を配置することで部活動顧問の教員の負担軽減につながる学校に、部活動指導員を配置し、教員の多忙化解消と部活動運営の円滑化に取り組む。

[任用条件]

教員免許状を有する者・教員を退職した者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度の競技別指導者資格を有する者・外部指導者の経験を3年程度有する者で、校長の推薦により教育長が許可した者。

~~(3) 総合型地域スポーツクラブ等との連携~~

~~—学校と総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型S・C」）が連携することで、生徒が所属する部活動の存続を図る取組が一部地域で始まった。生徒が地域スポーツクラブに所属し、部活動や練習試合・大会等においてスポーツクラブ指導員から指導を受けるシステムである。このように、地域のスポーツ活動を担う総合型S・C等との学校の連携により、生徒のニーズに応える部活動の整備を検討する。—~~

~~(4) (3) 部活動の合同化や拠点化の推進~~

指導経験のない教員が部活動を担当したり、部員数の減少に伴いチーム練習が困難となったりするケースが近年多くの学校で生じてきている。これらの課題を有する学校間で連携し、生徒のニーズに応えるために近隣の学校との合同部活動の取組や種目ごとの拠点化を進め、学校間で生徒を受け入れたり、指導教員を派遣したりするなどを検討する。

~~(5) (4) 適正な部活動数に向けた計画的な削減~~

生徒のニーズに応える部活環境を整えることが大切と考えるが、生徒数と教員数の減少に伴いこれまでの部活動数を見直し、廃部を進めねばならない学校も多い。入学見込み数や今後の動向を可能な限り把握し、地域に現状を発信する。また、部活動数の削減に向けた案を提示し、児童生徒や保護者・地域住民の理解を得ながら取り組む必要がある。教員の負担軽減や生徒の管理の面から複数の教員が担当できる部活動数が望ましい。

(5) 地域との連携

学校部活動だけでなく、地域で実施されているスポーツ・文化芸術活動の内容等も生徒や保護者に周知するなど、生徒が興味関心に応じて自分がやりたい活動を選べるようにする。

7 その他

従来、教育的配慮^{注1}から部活動を理由とした校区外通学を認めてきたが、現在行われている「部活動の地域移行」^{注2}の理念と方針が合致しないことから、~~今後は、認めないこととする。令和5年度から認めていない。~~

- (注1) 教育的配慮とは、進学先の中学校に、生徒が活動したい部活動が設置されておらず、県や各種団体等の強化指定を受けている生徒について「部活動を理由とした校区外通学」を認めること。
- (注2) 本市では、「部活動の地域移行」を、部活動を学校から地域に移そうとする一つの取組ではなく、「学校における部活動改革」と、「地域における子どもたちのスポーツ・文化活動の環境整備」という二つの取組であると捉えている。

【付記】

本ガイドラインは、教育委員会スポーツ推進課並びに上越市中学校長会及び各学校の意見等を参考にして策定したものであり、教職員のワークライフバランス及び生徒の休養日の設定を中心に考え設定したものである。本ガイドラインを提案するに際し、多くの意見が寄せられた。以下のような課題も見えてきたことから適宜見直しを行うものとする。

- 平成31年度に、中学校体育連盟では「地区割改正」「郡市大会廃止」などの大会運営に大きな変化があることから、中学校体育連盟（県または地区または市）や各種競技団体等の意見や保護者等の意見を聞き、本ガイドラインに反映させる必要がある。
- 生徒の部活動など多様なニーズに学校が応えられない状況が生じてきた。
- 部活動を負担に感じている職員とそうでない職員との意識の差がある。
- 部活動の成績がスポーツ推薦の基準となっている状況があるため、保護者の期待も大きい。
- 中学生の活動の受け皿となしてほしい社会体育や各種スポーツ団体の組織間の格差が大きい。
- 部活動に対する各学校の課題が異なり、ワークライフバランス等への取組意識に差がある。
- 令和5年度から7年度が休日の部活動の段階的な地域移行の改革推進期間と位置付けられた。令和8年度以降は、平日の部活動の地域移行に取り組む必要がある。
- スポーツ庁及び文化庁は「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を令和4年12月に策定・公表し、学校部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について示している。

◆ 学校における部活動改革スケジュール ◆

「部活動の地域移行」の理念 『部活動の地域移行』は、部活動を学校から地域に移そうとする一つの取組ではなく、『学校における部活動改革』と、『地域における子どもたちのスポーツ・文化活動の環境整備』という二つの取組である」との考え方に立ち、関係者の連携・協働により進めていくこと。

資料 1-3

子どもたちに
多様な活動機会を

- ・部活動にはなかった活動の機会
- ・専門性の高い指導
- ・地域の人との新たな交流

学校・先生が本来の業務に
エネルギーを注ぐために

- ・生徒に向き合う時間の創出
- ・部活動指導の負担軽減
- ・放課後・休日の超過勤務の削減

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年度

R5年度に向けた試行準備

週休日の段階的試行
1年目

週休日の段階的試行
2年目

週休日の段階的試行
3年目

週休日部活動なし
平日の試行 1年目

学校教育課

- 「上越市部活動の地域移行に係る推進委員会」の設立
 - ・年間4回推進委員会及び作業部会を実施
- 上越市中学校部活動指導ガイドラインの改訂（休養日の設定）
 - ・週当たり3日以上（平日1日以上、週休日等）を設けることを原則とする。（令和5年度からの3年間は可能な範囲で実施する。）
- 上越市の「部活動の地域移行」の児童生徒・保護者に対する周知
 - ・「部活動改革だより」「地域教育往来」での周知
 - ・地域クラブフェア等での周知
- スポーツ関係者への説明・周知
 - ・県スポーツ協会主催「地域ミーティング」での説明
 - ・上越市スポーツ協会及び上越市SCネット加盟団体を対象とした説明会
- 地域クラブに従事する場合の教職員の兼職兼業に関する学校への周知
 - ・文部科学省の文書を学校へ発出 周知
- 上越市中学校長会との連携

中学校長会

- 上越市中学校部活動指導ガイドラインの改訂を受けた部活動実施可能日の検討
 - ・ワーキンググループを立ち上げ検討
 - ・各校で教員や生徒の思いを聞きながら検討
- ◎各競技の連盟や協会が主催する大会への参加や練習試合等のために休日の活動を行う場合、校長の判断により年間20日以内で実施することを認める

上越市部活動指導ガイドラインの年度改定(学校教育課)

- <週休日>
 - R5ガイドラインでは「週当たり3日以上（平日1日以上、週休日等）を設けることを原則とする。（令和5年度からの3年間は可能な範囲で実施する。）」を提示
- <平日>
 - R5ガイドラインでは、平日の休養日は平日1日以上だが、R8からの平日の部活動段階的移行を見据え、R8からの平日の部活動の在り方について校長会とともに検討を進め、ガイドラインを改定 ※国の動向を注視（平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進）

週休日の部活動(中学校長会)

R5～R7 段階的に削減

年間20日以内

年間0～15日

年間0～10日

- 年度ごとに段階的に削減し、R8からは週休日の部活動を行わない。R6,R7については教員や生徒の声を聞きながら校長会が調整
- 現状は年間活動可能日数の設定。その他の段階的な削減の条件（部活動を行わない期間の設定等）は今後の検討課題
- 中学校長会は学校や種目ごとに休日の部活動の削減を検討することについて了承 → 今後ワーキンググループ等で検討を進める

週休日は
部活動を行わない

平日の部活動(中学校長会)

- R8からの平日の部活動の在り方について検討中 ※学校教育課とともにワーキンググループ等で検討を進める

平日の試行開始

教員の兼職兼業(学校教育課)

- 県の通知を受け、学校へ通知を発出
- 要件を満たす教員の兼職兼業届の受理
- 関係課への情報提供

遠征費補助 困窮家庭への支援 移動手段の検討(関係課)

- 関係課会議で支援の在り方について検討中
- ※基本は受益者負担だが、現状の支援を基に必要な支援を見極める

児童生徒・保護者・市民への周知(関係課)

- 「部活動改革だより」を児童生徒及び保護者へ発行
- 市ホームページへ情報を掲載し市民へ周知
- 地域クラブフェア等でのブース展示による周知
- 市P連会議等での説明・周知

国・県への要望(関係課)

- 全国市長会や県都市教育長協議会等において、学校の部活動改革及び地域における新たなスポーツ・文化活動の環境整備に関する仕組みづくりに関する支援への要望を上げていく

◆ 地域における子どもたちのスポーツ・文化活動の環境整備（スケジュール）

子どもたちに 多様な活動機会を

- ・部活動にはなかった活動機会
- ・専門性の高い指導
- ・地域の人との新たな交流

子どもたちが安心してスポーツ・ 文化活動ができる環境づくり

- ・地域クラブにおいて適切な指導ができる指導者の確保
- ・安心して活動ができる場所の確保

◆上越市中学校部活動ガイドラインを改定
(令和8年度から週休日における部活動を行わない)

令和5年度 ← 検証改善 令和6年度 ← 検証改善 令和7年度 ← 検証改善 令和8年度

部活動の地域移行に向けた準備
(受け皿となる既存団体との調整等)

部活動に代わる新たな
仕組み・制度の検討・創設

新たな仕組み・制度の検証
平日を含めた部活動の完全移行への準備

週休日部活なし
平日の試行の検証

多様な活動機会の提供

- ★持続可能な受け皿づくりと適切な指導ができる指導者の確保
 - ・指導者講習会の開催
 - ・指導者研修会の開催
 - ・指導者謝金
 - ・指導者資格取得補助金
- ★文化芸術団体同士の情報交換による団体運営ノウハウの向上と事業検証、次年度に向けた改善
 - ・実証事業関係者による連絡会議
- ★多様な団体との出会いのための人材バンク(指導者情報)作成と指導者、団体情報の提供
 - ・上越市生涯学習情報誌の活用

安心してスポーツ・文化活動ができる環境づくり

- ★安心して地域クラブに参加し、活動できる仕組みづくり
 - ・保険料相当額の支援
- ★子どもたちとスポーツ・文化団体との出会いの場づくり
 - ・地域クラブフェアの開催:年2回(5月・12月)
- ★子どもたちのスポーツ環境を統括する団体の運営費を支援
 - ・スポーツ団体運営補助金
- ★子どもたちと地域クラブ、学校の連絡調整を行うコーディネーターを雇用
- ★競技志向ではなく友だちと楽しく活動できる機会を提供
 - ・レクリエーション等を主体とした活動
- ★活動場所、備品の確保に向けた取組
 - ・学校施設開放の拡充
 - ・小・中学校で保有する楽器の活用

合意形成・検証 ※関係機関との情報共有・周知、年4回の検討機会による検証・改善

- 推進委員会の開催(学校教育課)
- 地域移行推進室の設置
- 推進委員会の開催(地域移行推進室)

適切な指導ができる指導者の確保・育成

- 指導者講習会
- 指導者謝金に係る費用の支払い
- 部活動指導員の配置(学校教育課)
- 指導者講習会
- 指導者資格取得報償金
- 指導者謝金
- 実証事業関係者による連絡会議
- 部活動指導員の配置(学校教育課)

地域クラブの安全安心の確保

- 保険料相当額の支援
- 保険料相当額の支援

市内のスポーツ・文化団体との出会いの場づくり

- 地域クラブフェアの開催
- 地域クラブフェアの開催
- ※人材バンク(指導者情報)の作成と指導者・団体情報の提供

運営団体の基盤の強化

- 上越SCネット運営補助金
- スポーツ協会運営補助金
- 上越SCネット運営補助金
- スポーツ協会運営補助金

推進体制の構築

- 地域クラブ活動コーディネーターの配置
- 地域クラブ活動コーディネーターの配置
- 会計年度任用職員の配置

レクリエーション等の活動団体創出と機会の提供

- レクリエーション等の活動団体の創出・検討
- 上越SCネットを主体としたレクリエーション活動の実施・検証
- ※競技志向ではなく友だちと楽しく活動できる機会を提供

活動場所、備品の確保

- 地域クラブの活動場所確保に向けた部活動で使用しなくなった学校施設の活用
- 施設や備品(楽器)の不足分の検討

国・県への要望(関係課)

※全国市長会や全国教育長会議等を活用し、部活動改革に伴い受け皿となる地域クラブや市内の文化・芸能団体の自立に向けた仕組みづくりと財政支援を要望

平日を含めた
部活動の完全
移行に向け、地
域クラブが受
益者負担で自
立できるよう
継続して支援

上越市中学生のスポーツ活動の環境整備の進捗状況について

資料2-2

【令和5年度 中学生の地域におけるスポーツ活動環境整備事業】

令和6年2月20日現在

① 指導者謝金に係る費用の支払い(適切な指導ができる指導者の確保・育成)

- ・ 適正な指導者としての資質を満たした人材の確保を図るため、指導者謝金に係る費用を支払う。
(指導者謝金額 指導者1人/日につき、1,500円/時間 ※3時間/日、年48日が上限)
- ・ 次のいずれかの要件を満たす指導者を対象とする。
 - ア 教員の資格を有している人
 - イ 公益財団法人日本スポーツ協会公認の資格、または同等の資格を有している人
(スタートコーチ資格のみを有する人を除く)
 - ウ 上越SCネットが主催するスポーツインテグリティ研修会の修了証を所有している人
 - エ 市主催の指導者講習会を受講している人(年2回の受講)

■令和5年度登録チーム数状況:41団体

単位:団体

競技区分	加盟団体		合計
	上越市スポーツ協会	上越SCネット	
ラグビーフットボール		1	1
硬式野球	1		1
バレーボール	5	4	9
卓球	5	2	7
水泳	3		3
陸上	1	2	3
硬式テニス	1		1
サッカー	1	1	2
バスケットボール	6		6
野球		1	1
ソフトボール	1		1
クライミング	1		1
ソフトテニス	1		1
柔道	1	1	2
XCスキー		1	1
剣道		1	1
合計	27	14	41

※指導者謝金に係る費用の支払いをするには、チーム登録が必要

■要件を満たしている指導者人数(重複あり)

単位:人

教員の資格所有	30
JSP0公認資格所有(コーチI以上)	15
スポーツインテグリティ研修修了者	31
指導者講習会受講者(年2回受講済)	49
累計	125

・指導者謝金支払い状況

11競技22団体47人に支払(見込含む) 支払額4,616,000円(令和6.2.15現在確定分)

② 保険料相当額の支援(地域クラブの安全安心の確保)

- ・ 地域スポーツクラブの人数に応じた保険料相当額を支払う。
(中学生 800 円/人、指導者 1,850 円/人が上限) ※スポーツ安全保険の保険料の額を参考

保険料支払い状況

23団体492人分(中学生411人、指導者81人)支払額 449,950 円(令和 6.2.14 現在確定分)

競技区分	団体名	内 訳		
		中学生	指導者	指導者
上越市スポーツ協会	陸上 はね馬クラブ	132	20	
	ソフトボール 桜花ソフト	14	6	
	卓球 ブルースカイジュニア	11	0	
	クライミング 上越スポーツクライミング連盟	3	1	1
	バスケットボール J-cowboys	26	0	0
	バスケットボール グランディール	14	0	0
	柔道 順道館牛木塾	16	4	
	サッカー Jjwish	5	2	1
	硬式野球 上越ヤング	28	5	0
	柔道 さんわ柔道	1	2	
	バレーボール さんわバレー	17	3	
	サッカー くびきのFC	42	2	
	剣道 頸城大濃少年剣道	6	2	1
	ラグビー NPO法人ワセダクラブ北信越支部ラグビ	7	3	0
	バレーボール 安塚 Rikka-RokkaVBC	6	3	0
上越SCネット	陸上 やすづかスポーツクラブ	9	1	0
	XCSキー 中郷 x c スキー	8	20	2
	軟式野球 中郷野球SC	11		
	卓球 中郷卓球SC	15		
	バレーボール 中郷バレーボールSC	13		
	水泳 上越水泳協会地域クラブ	10	1	
	バレーボール 大潟JVC	15		
卓球 大潟ジュニア卓球クラブ	2	1		
15種目	23 団体	411 人	76 人	5 人
		合計 492 人		

③ 地域クラブフェアの開催(市内のスポーツとの出会いの場づくり)

- ・ 地域で活動する団体を広く紹介し、子どもたちが地域で活動するきっかけづくりを図る。

・令和 6 年度「上越市 春の地域クラブフェア」について

別紙参照

【R5 年度との相違点】

- ・周知を小学生4年生～中学校2年生 ⇒ 周知を小学校1年生～中学校2年生
- ・チラシを配布 ⇒ 校支援・保護者連絡システムを活用し、各家庭にデータを送付
- ・社会教育課と共同で開催

④ 各競技団体に加盟するチームの現状把握

ア チーム調査票…各競技団体に加盟するスポーツ団体の活動を把握する。

(チームの対象年齢や指導体制、会費、チーム方針などを調査)

イ 検討会…各競技団体と検討会を設け、施設の要望や活動の現状把握及び環境整備に関する意見交換の場とする。

調査票提出状況

単位:団体

競技区分	加盟団体		合計
	上越市スポーツ協会	上越SCネット	
バレーボール	2	0	2
水泳	1	0	1
硬式テニス	2	0	2
サッカー	4	0	4
バスケットボール	15	0	15
クライミング	1	0	1
ソフトテニス	1	0	1
剣道	5	0	5
幼年野球	9	0	9
スケート	1	0	1
バドミントン	5	0	5
相撲	1	0	1
硬式野球	1	0	1
太極拳	1	0	1
合計	55	0	55

※R6年度は、チーム登録と調査票を兼ねたものを提出してもら

次回、検討会は調整中

⑤ 指導者の育成(適切な指導ができる指導者の確保・育成)

- ・ 中学生が地域スポーツ活動を安心して安全に行えるよう、適正な指導者としての資質を満たした人材の育成を図る。

ア 指導者資格取得報償金

日本スポーツ協会公認資格「コーチ I」以上の資格等を対象に受講料の2分の1の額(上限 18,000円)を支給する。

イ 指導者講習会の開催

「ハラスメント防止」に関する内容に重点を置くほか、中学生の指導者として最低限必要な「トレーニング論」や「スポーツと栄養」、「指導計画と安全計画」の講習会を日本スポーツ協会公認資格コーチ Iの内容を参考に開催する。

・現在の状況

〈資格取得に係る経費の一部給付〉

単位:人

競技団体	人数
水泳	1
合計	1

〈指導者講習会の開催・受講者数〉

第1回…ハラスメントの防止について(上教大 土田教授)

第2回…トレーニング論(上教大 松浦准教授)、スポーツと栄養(上教大 池川准教授)

※当日、やむを得ず欠席した者に対して、12/22、12/27 にビデオ講習会を実施

※2回受講済みの受講者には、受講証明書を送付

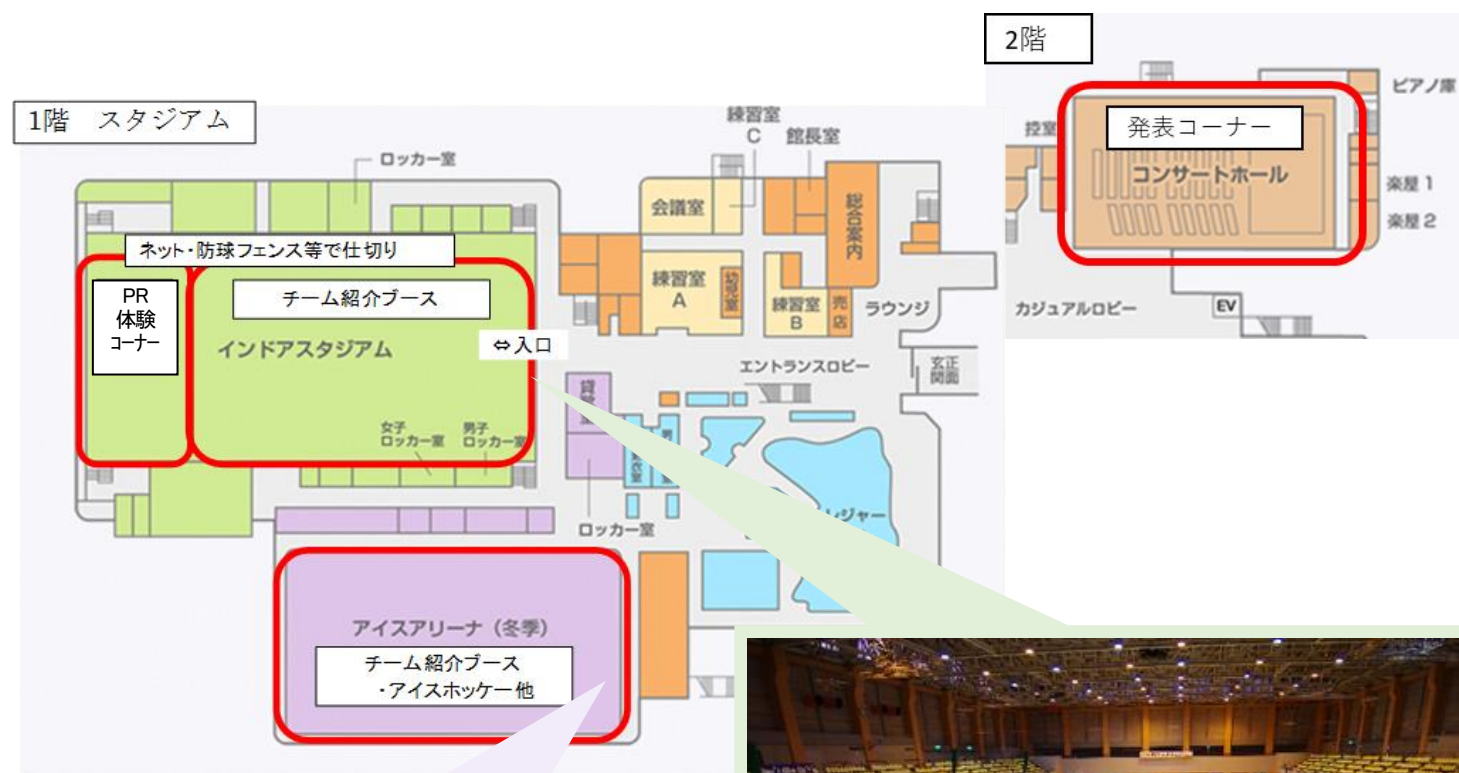
単位:人

競技区分	第1回分 (5/28、ビデオ講習会含)	第2回分 (12/10、ビデオ講習会含)	受講証明書発行者 (2回受講済み)
空手道	4	5	4
剣道	6	8	3
柔道	8		
サッカー	1		
新体操	1		
クライミング		2	
スポーツチャンバラ	1	1	1
相撲	3	3	3
ソフトテニス	8	2	
太極拳		2	2
卓球	3	3	1
ダンススポーツ	2		
硬式テニス	12	4	3
バレーボール	1	1	1
ソフトテニス		3	5
バスケットボール	10	9	6
バドミントン	8	8	6
プログラミング	1		
マーチングバンド		3	
野球	2	2	
ヨガ		1	
水泳	1	1	1
チア	3		
アクティブスポーツ	2		
総合型地域スポーツクラブ	20	13	12
中学校教諭		2	
スポーツ推進委員	9	3	
一般参加	1	2	1
合計	113	78	49

- 1 目的：休日部活動の縮小を受け、地域における子どもたちのスポーツ・文化活動の環境整備に向けて、各団体と子どもたちや、その保護者が一堂に会する「地域クラブフェア」を開催し、地域でスポーツ・文化活動を行っている団体が活動内容の紹介や演技披露などを行い、子どもたちが地域で活動するきっかけづくりを提供する。
- 2 実施日時：令和6年5月11日（土）10時から16時（予定）
- 3 主催：上越市教育委員会
- 4 ところ：リージョンプラザ上越・インドアスタジアム、アイスアリーナ、コンサートホール

〈活用イメージ（案）〉

- インドアスタジアム・・・3/4スペース：チーム紹介ブース ※体験コーナーあり
1/4スペース：チームPRブース、体験会ブース
- アイスアリーナ・・・・アイスホッケー・スケートデモンストレーション
- コンサートホール・・・・マーチングバンド、チア、武道等を想定 ※社会教育課と要相談
※チームの参加状況によってロビー、コンサートホール、練習室等を利用する。



11月開催時の様子(アイスアリーナ)



11月開催時の様子(インドアスタジアム)

- 5 参加者：上越市内の小・中学校に通う児童・生徒と保護者
- 6 11月開催時の概要（参考）

日時	11月11日（土）午前10時～午後4時
会場	リージョンプラザ上越インドアスタジアム・アイスアリーナ
参加団体	36団体（スポーツ団体29、文化団体3、その他4団体）
来場者数	2,138人 内訳：大人（保護者） 1,193人 ※前回来場者数1,536人 児童・生徒 823人 幼児・高校生 122人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 各参加団体による活動紹介ブース及び活動体験コーナーの設置 PR特設ステージでのパフォーマンス（インドアスタジアム・アイスアリーナ） キッチンカーの出店、スポーツ用品の販売 など
来場者の声 (アンケート、インタビュー)	<ul style="list-style-type: none"> 前回も参加させていただき、とても参考になったので、今回も参加しました。イベントが充実していてとても楽しかったです。(保護者) 最初は乗り気でなかった子どもたちでしたが、スタンプラリーのおかげで色々なスポーツを体験し、クラブ活動の選択肢が広がりました。(保護者) 地域クラブのことをたくさん知りたい。太陽誘電ソルフィーユにも毎年来てもらいたい。とても楽しかった。このようなイベントを来年もしてほしい。(小学生男子) スピードスケート実演はとても迫力があり、フィギュアスケートステージは華やかだった。体験会ではみんな楽しそうだった。自分もやってみたいと思った。(中学生女子) 体験会を行ったところ、入会希望もあり、手応えを感じた。今後もイベントを続けてもらいたい(参加団体) 小学生に周知していただいた効果もあり、多くの子どもたちに体験してもらうことができた。PRにも力が入りました。(参加団体)

7 周知について

早期からの地域のスポーツ・文化活動に参加する機会を提供するため、中学校のみならず、小学校を通じて、市内の小・中学校に通う子どもたちと保護者に呼びかけを行う。

8 当日までのスケジュール（案）※競技団体の意向を確認しながら進めていく

時期	実施事項
2月上旬	団体参加希望案内、集約 業者との打ち合わせ、契約事務
3月下旬	キッチンカー依頼 参加チーム・クラブ確定
～4月中旬	競技団体へ開催イメージ通知、当日スケジュール調整
4月下旬	学校・子どもへの周知文配布
4月下旬	参加クラブへの説明会（会場：教育プラザ）
5月10日	職員前日準備
5月11日	当日（参加団体は当日朝準備）

1 日時、会場

- (1) 日時 令和6年4月13日(土) 午前9時30分～午後4時
- (2) 会場 ユートピアくびき希望館(上越市頸城区百間町716)

2 趣旨、目的

中学校の部活動改革に伴い、地域における子どもたちのスポーツ活動の環境整備に向けて、地域クラブの指導者を対象とした講習会を開催する。

指導者講習会を開催することで、本市における適正な指導者としての資質を満たした人材の育成・確保を図り、持続可能な地域におけるスポーツ活動と健全な青少年スポーツの振興を目指す。

当講習会を受講した指導者は「スポーツ活動の環境整備に向けた令和6年度事業」における「指導者謝金に係る費用の支払い」の対象となる指導者要件を満たすこととする。

3 概要

対象者	市内で中学生を対象に活動するスポーツ団体の指導者、その他スポーツ活動指導者
内容	内容は日本スポーツ協会公認資格「コーチⅠ」の内容を参考にして実施する。 ・午前の部…ハラスメントに配慮した指導、選手との信頼関係の構築について(講義及びワークショップ) ・午後の部…スポーツ生理学・栄養学、体づくり運動・ストレッチ他(講義及び実技) ※当日、簡単な実技を行いますので、動きやすい服装でご参加ください。
講師	・午前の部…TM 共同法律事務所 渡部和哉 弁護士 ・午後の部…上越教育大学 池川 茂樹 准教授 長谷川 晃一 講師 ※謝金、旅費支払い対応
前年度からの変更点	・ 上越SCネット主催のインテグリティ研修との一本化 本指導者講習会と上越SCネット主催のスポーツインテグリティ研修は、いずれも令和5年度指導者謝金の支払い要件としており、対象者や内容等が重複している。受講する側の分かりやすさを重視するため、令和6年は一本化することとする。 ・ 年1回のみ、1日日程での開催とする。 令和5年度は2回開催だったが令和6年度は4月のみの1回開催とし1日日程で行う。それにより受講者のスケジュール調整を行いやすくする。また、子どもたちの指導にあたり、講習の内容を年度当初から生かすことができ、指導者謝金についても年度当初から支払いが可能となる。
その他	・開催案内及び参加申込は、各競技団体・SCネットを通じて行うほか、競技団体・SCネットに未加入のチーム・指導者についても、ホームページやポスター掲示等により開催案内を行う。 ・受講無料。

【参考】

「上越市地域スポーツクラブ活動指導者謝金に係る費用の支払い」の対象となる指導者要件

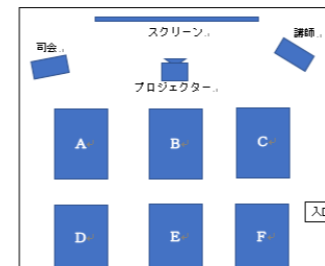
次のいずれかの要件を満たす指導者

- ・教員の資格を有している人
- ・公益財団法人日本スポーツ協会公認の資格を有している人(スタートコーチ資格のみを有する人を除く。)
- ・市主催の指導者講習会を受講している人

4 前回(R5/12/10)のふりかえり

- ① 講師及び内容： 上越教育大学 池川 茂樹 准教授、松浦 亮太 准教授
 講義 60分×2コマ、ワークショップ(グループに分かれて実施)
 「栄養補助による身体づくりサポート」「“楽に”上を目指すトレーニング」

② 会場レイアウト



③ 会場の様子



④ 参加者の声(アンケートから)

- ・ワークショップで、他のスポーツ団体と意見交換ができて良かった。継続してほしい。
- ・研究成果を拝聴できる貴重な機会だった。大人も子供も健康に成長できる、機会をいただいた。
- ・ケガの予防についてや、成長期の食事・栄養についての講習を受講したい。

⑤ 今後の予定と課題

- ・ハラスメントに関する内容については、毎年開催し、毎年受講することで指導者謝金補助金の交付要件を満たすこととする。
- ・ハラスメント以外の内容として、参加者から多くの声があった「ケガの予防」「心理学」「コーチⅠ」の内容を参考とした「ジュニア期のスポーツ」「スポーツと栄養」等を含めたテーマで検討を進める。
- ・他の競技団体と意見交換ができるワークショップを今後も継続する方向で、内容の検討を進める。

5 欠席者への対応

当日の様子をビデオ撮影し、講習会参加を希望するがやむを得ず欠席する指導者に対して、後日、ビデオ講習会の開催またはビデオ配信を検討する。その場合、指導者謝金支払要件については、ビデオ視聴後レポート提出をもって要件を満たすこととする。

6 前日、当日の流れ(案)

区分	時間	内容
前日準備 12日(金)	15時～	プロジェクター等調整(PC接続、投影確認) 受付設置、会場準備
当日 13日 (土)	8時50分	PC接続確認
	9時10分～	受付、講師打ち合わせ
	9時30分	開会
	9時40分～11時10分	講義(90分)
	11時20分～12時00分	ワークショップ
	12時～13時	昼休憩
	13時～14時	講義・実技・質疑応答
	14時～14時15分	ワークショップ(15分)
	14時30分～15時30分	講義・質疑応答
	15時30分～15時45分	アンケート記入
	15時45分	閉会(閉会后、片付け～16時30分)

プラン4 スポーツの振興

取組4-1 スポーツ活動の充実

□ 目標

健康づくりや体力づくり、生きがいづくりや競技力の向上などの多様なスポーツ活動を通じて、人と地域が結び付き、活力のある地域社会を実現する。

1 スポーツ活動の普及推進

□ 成果指標

評価内容	令和5年度 目標値	3月末時点 達成状況
1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2回1年以上実施している人の割合 <現状値：R4・35.7%> ※実施率＝KDB（特定健康診断結果）健康づくり推進課より提供	36.7%以上	34.1%

□ 評価

- ・特定健康診断結果による運動習慣の実施率について、4月から12月までにおいては36.9%と目標を上回っていたが、3月末時点で34.1%となり、令和5年度の目標を下回っている。
- ・冬期間、降雪により、日々の運動習慣が途切れることで、運動実施率が低くなったことが主な要因と考えられる。
- ・今後、様々なスポーツイベントやスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団が主催する事業等の再開に伴い、市民のスポーツへの関心が高まり、スポーツに取り組む市民は増加するのではないかと考えている。
- ・特定健康診断結果によるデータに加え、健康づくり推進課において実施する健康アプリによる収集データも参考にしながら、働き盛り世代と高齢者の運動実施率の向上に向けた対策として、スポーツ推進委員と連携した教室等に取り組んでいく。

□ 目標を達成するための事業等

(1) スポーツ推進委員によるスポーツの指導・啓発

市内全域で、日常的にスポーツができる環境づくりをめざすため、ニュースポーツや健康・体力づくり運動等の教室、スポーツイベントに指導者としてスポーツ推進委員を派遣した。

スポーツ推進委員によるスポーツ指導啓発	実施回数	参加人数	令和4年度 参加人数	令和元年度 参加人数
出前講座 ○スポーツ推進委員による市民対象の講座 ・ニュースポーツ教室など ・地域での健康体操 ・市民向け体力測定会	119回	4,297人	4,406人	6,030人
健康運動教室 ○成人を対象としたストレッチやレジスタンストレーニングの健康運動プログラム教室（1教室20人募集）	16回	278人	206人	実施なし
親子運動教室 ○2歳から5歳児を対象とした親子の運動教室（1教室10組20人募集）	3回	69人	36人	133人 ※2講座 2回

(2) スポーツ大会・教室、各種団体等の支援（補助金・交付金）

・スポーツ大会等の支援（補助事業12,893千円）… 交付率92.0%

内容	実施日	参加者数	令和4年度 参加者数	令和元年度 参加者数
米山山麓ロードレース大会	4月16日	550人	中止	876人
スカイスポーツ大会	5月27日～28日、 8月30日～9月1日	201人	中止	151人
高田城ロードレース大会	6月4日	1,865人	1,748人	2,507人
やすづかスポーツ大会	6月10日～11日	174人	122人	400人
第9回うらスポマラソン大会	6月18日	230人	183人	485人
吉川区体育祭	7月2日	中止	中止	1,000人
不動山登山	7月16日	中止	23人	55人
ビーチバレーボール4人制 inJOETSU大会	7月30日	222人	262人	206人
中郷区体育祭	8月27日	300人	300人	1,200人
市民スポーツ祭	9月～11月	2,200人	1,800人	3,050人
さんわ体育祭	9月24日	800人	中止	1,200人
くびき総合スポーツフェスタ	9月30日 ～10月8日	955人	815人	1,631人
松ヶ峰トリムマラソン大会	10月9日	121人	123人	476人
歩こまいか名立	10月9日	中止	14人	22人
まつりっち inきたすわ(有田地区体育・レクリエーション事業)	10月14日	450人	中止	250人
新潟県駅伝競走大会	10月15日	45人	40人	38人
牧区体育祭	10月15日	160人	中止	500人
大潟区体育祭	10月15日	中止	中止	中止
さんわ駅伝大会	10月15日	130人	中止	96人
名立区駅伝競走大会	11月3日	177人	126人	264人
清里区秋季スポーツ交流会	11月4日	200人	200人	中止
中郷歩くスキーとクロスカントリースキー大会	2月18日	中止	26人	中止
清里区冬季スポーツ交流会	3月3日	300人	200人	350人
レルヒカップスキー&スノーボード大会	3月9日	154人	200人	中止

※ 今年度の中止は雨天等によるもの。

・各種団体等の支援

内容	予算額	補助額	補助率
スポーツ指導者養成事業	880千円	880千円	100%
スポーツアスリート育成強化事業	2,100千円	2,100千円	100%
上越市スポーツ協会運営費	7,472千円	7,472千円	100%
スポーツ施設借上料等	923千円	923千円	100%

上越市第3次総合教育プラン実施計画に基づく令和5年度の取組

(3) 上越—健康運動プログラム (J-WELLNESS)

上越教育大学、健康づくり推進課、スポーツ推進課が連携し、生活習慣の改善と健康スポーツの推進による、生活年齢の引き下げをめざした個別のプログラムを提供した。

期	会場	日程	回数	参加者数	令和4年度参加者数	令和元年度参加者数
1	高田スポーツセンター (高田城址公園)	5月10日～6月28日	全8回	99人	268人 ※2講座 36回	36人 ※1講座 4回
2	総合体育館	8月23日～10月11日	全8回	160人		
3	ジムリーナ	10月25日～12月13日	全8回	115人		

(4) いきいきスポーツ教室委託事業

上越SCネットと連携し、スポーツクラブの無い大島区、牧区で、ノルディックウォーキング等のスポーツ教室を開催し、日常でスポーツを楽しむ環境を提供した。

No.	会場	日程	回数	延べ参加者数	令和4年度延べ参加者数
1	大島多目的ホール ふれあい館他	5月19日～10月27日	全15回	203人	164人
2	牧体育館他	5月30日～10月31日	全12回	242人	120人

(5) 東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業

ドイツとの交流やパラスポーツ体験を通じスポーツ振興を図ると共に、国際交流への関心や共生社会への理解を深める。

・あすチャレ！スクール

車いす陸上競技の永尾嘉章さんを講師に招き、パラアスリートによるデモンストレーションやパラスポーツ体験等によりパラスポーツの良さを感じさせる出前授業を小中学校5校で実施した。

No.	実施校 (学年)	日程	参加者数
1	保倉小学校 (5、6年生)	6月20日	33人
2	富岡小学校 (5、6年生)	6月20日	32人
3	里公小学校 (6年生)	6月21日	19人
4	名立中学校 (1～3年生)	6月22日	51人
5	吉川中学校 (1～3年生)	6月22日	70人



保倉小学校



名立中学校

・あすチャレ！ジュニアアカデミー

パラアスリート講師を招き、講師自身の障害や経験、他の障害の特性を聞くことを通じて「障害」について考える出前授業を小中学校2校で実施した。

No.	実施校 (学年)	日程	講師	参加者数
1	高田西小学校 (4年生)	2月6日 (火) 8時30分～10時05分	永尾 由美 講師	53人
2	富岡小学校 (5年生)	2月26日 (月) 10時25分～正午	馬島 誠 講師	16人

・オリンピック・パラリンピアン交流事業

東京2020パラリンピック強化委員長兼日本代表女子監督ほか2名を招致し、ジュニア選手への競技の指導や、スポーツに対する考え方や生き方を学ぶ講演会を実施した。

開催日時	令和6年2月25日 (日) 9時30分～12時30分
会場	謙信公武道館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ柔道との出会い (廣瀬講師が、目に障害を負って柔道に救われたことなど体験談からあきらめないことの大切さを指導) ・パラ柔道とはどのような競技か (パラ柔道のルールや柔道の基本は受け身「負けから始まる」スポーツであること等) ・視覚障害体験 (アイマスクをして目の不自由な人との意思の疎通を図ることの難しさをや動きが制限されること等を体験) ・パラ柔道メダリストとの模範試合
講師	日本視覚障害者柔道連盟専務理事 佐藤 雅也 講師 東京2020パラリンピック強化委員長兼日本代表女子監督 上瀧 亨 講師 日本視覚障害者柔道連盟育成コーチ 廣瀬 誠 講師 リオデジャネイロパラリンピック 60kg級 銀メダリスト
参加者数	130人



「パラ柔道との出会い」
講師 廣瀬 誠



全体集合写真

上越市第3次総合教育プラン実施計画に基づく令和5年度の取組

・ドイツへのジュニア選手派遣事業

交流を深めることで競技団体レベルの交流の継続をめざすため、東京オリンピック・パラリンピックで選手を受け入れた、柔道と体操競技に取り組んでいる中高生をドイツに派遣した

競技名	日程	派遣先	派遣人数
柔道	8月20日～8月26日	柔道クラブ Bremen1860、 ニーダーザクセン州ほか	5人 (選手4人、指導者1人)
体操	3月1日～3月11日	ハレナショナルトレーニング センター、マンスフェルトス ポーツクラブほか	6人 (選手4人、指導者2人)



[柔道] Bremen 1860 での練習



[柔道] ニーダーザクセン州オリンピック
トレーニングセンターでの練習



[体操] マンスフェルトス
ポーツクラブでの交流練習



[体操] ハレナショナルトレーニング
センターでの体操練習(東京2020オリンピック
事前合宿にて当市に来越したドイツ体操チ
ームとの交流)

2 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業

□ 成果指標

評価内容	令和5年度 目標値	3月末時点 達成状況
市内の総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ協会に所属する会員の人口に対する割合。 <現状値：R4・11%>	12%以上	12%

□ 評価

- ・市内の総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ協会に所属する会員数は21,811人であり、当市の人口減少がより顕著であったことから、3月末時点で12%となり、令和5年度の目標を上回っている。
- ・市内の総合型地域スポーツクラブにおける世代別会員数調査の結果、全体の会員数は減少傾向にある中、中学生と高齢者は前年度より増加している。中学生については、部活動の地域移行に伴う各クラブの取組の成果であり、高齢者については、コロナ禍で運動できなかった運動志向の高い高齢者がクラブに加入したものと考えられる。
- ・小中学生と地域クラブの各団体とのマッチングを図る「地域クラブフェア」は、参加した地域クラブの会員獲得に効果的なイベントであるとの評価を得た。

□ 目標を達成するための事業等

- (1) 総合型地域スポーツクラブ運営補助金(補助事業2,055千円) … 交付率100%
 - ・上越SCネットの運営を補助し、総合型地域スポーツクラブの活動を支援した。
 - ・また、各クラブの資源の共有化を推進し、中学生対象の地域クラブ活動の支援の他、様々なスポーツを市内各所で実施できる体制の構築を進める。
- (2) 総合型地域スポーツクラブ研修会
 - ・総合型地域スポーツクラブの指導者や生涯スポーツ関係者対象の研修会を実施し、総合型地域スポーツクラブの認知度を高めると共に、生涯スポーツ指導者の資質の向上をめざす。

開催日時	令和5年12月17日(日) 9時00分～12時30分
会場	清里コミュニティプラザ3階 多目的ホール(上越市清里区荒牧18番地)
内容	「アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP)」 子どもたちを取り巻く現状のスポーツ環境を踏まえ、運動遊び、伝承遊びを活用しながら、そのアレンジの仕方などを紹介し、子どもたちが夢中になる運動遊びを実践形式で行う。(講義と実技指導)
講師	アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP) 青柳 彩 講師
参加者数	27人

(3) スポーツ指導者が地域で活動できる環境整備

- ・上越市地域クラブフェア
※詳細は、5ページで説明

上越市第3次総合教育プラン実施計画に基づく令和5年度の取組

3 スポーツ競技力の向上

□ 成果指標

評価内容	令和5年度 目標値	3月末時点 達成状況
中高生の北信越大会と小・中・高生の全国大会出場者数 <現状値：R4・667人>	560人以上	791人

□ 評価

- ・9年目を迎えた、小、中、高一貫指導体制による競技力の向上を目指した「ジュニアトップアスリート育成事業」指定団体（空手道、バレーボール、体操、陸上、山岳、硬式野球、スキー競技等）で育まれた選手の活躍もあり、3月末時点で791人となり、令和5年度の目標値を上回っている。
- ・今後、指導者の育成や確保のため、協定を結ぶ日本体育大学や上越教育大学と連携し、指導法が学べる講習会を開催し、指導者の質を上げ、競技力の向上に取り組んでいく。
- ・また、裾野を広げるため、「地域クラブフェア」を活用し、競技人口の拡大にも取り組んでいく。

□ 目標を達成するための事業等

(1) ジュニアアスリートの育成

ジュニア期から少年期まで一貫した指導体制を整備することで、競技人口の増加を図ると共に、選手層の育成強化を図ることで、競技力の向上をめざす。

・ジュニアトップアスリート育成強化事業（補助事業1,615千円） … 交付率100%

体 操 競 技	全国高等学校総合体育大会体操競技大会	4人出場	3人41位	
	全日本ジュニア体操競技選手権大会	1人出場	1人15位	
	全国中学校体操競技選手権大会	2人出場	1人40位	
	北信越高等学校体操競技選手権大会	7人出場	4人3位	
	北信越国民体育大会	3人出場	3人3位	
	北信越中学校総合競技大会	5人出場	3人2位	
	北信越ジュニア体操選手権大会	5人出場	3人2位	
	山 岳	ユースリード日本選手権	2人出場	1人20位
		ボルダージュース日本選手権	2人出場	1人26位
		国民体育大会北信越ブロック大会	3人出場	1人2位
鹿児島国体		2人出場	1人18位	
野 球	全国高校選抜スポーツライミング大会	1人出場	1人66位	
	都市対抗前座試合	1人出場		
	倉敷選抜大会東日本ブロック代表決定戦	6人出場	3位	
	日刊スポーツ杯オールスター大会	4人出場	準優勝	
	日本少年野球関東大会	22人出場	準優勝	
ス キ ー	全国中学校スキー大会	3人出場	2人2位	
	JOCジュニアオリンピックカップ2024全日本ジュニアスキー選手権大会	6人出場	3人2位	

・地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業（県補助事業1,422千円） … 交付率100%

空 手 道	全国中学生空手道選手権大会	7人出場	
	全国小学生・中学生空手道選手権大会	80人出場	9人優勝
	全日本少年少女空手道選手権大会	10人出場	
	全日本少年少女空手道選抜大会	5人出場	

全国中学生空手道選抜大会	6人出場	
北信越高等学校空手道選手権大会	9人出場	1人4位
北信越小中学生空手道選手権大会	5人出場	2人準優勝
北信越地区空手道選手権大会	17人出場	4人優勝
バレーボール 第26回全国ヤングクラブ優勝大会	20人出場	

(2) 日本体育大学との連携事業

- ・協定を結んでいる日本体育大学から指導者を招致し、アスリートや指導者への研修会を開催し、指導力の向上を図った。

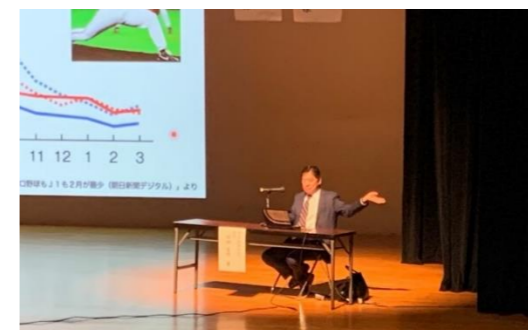
① バレーボールジュニアアスリートスキルアップ練習会&指導者クリニック

区分	内容
開催日時	1日目：6月10日14時00分～17時00分 2日目：6月10日9時00分～12時30分
会 場	リージョンプラザ上越インドアスタジアム
内 容	ジュニアアスリートの練習会及び指導者クリニック
講 師	日本体育大学アスレティックデパートメント男子バレーボール部 山本 健之 監督 日本体育大学学友会男子バレーボール部 部員26人
参加者数	上越バレーボール協会指導者・上越市ジュニアトップアスリート育成強化指定選手 上越地区高校男子バレーボール部・上越市中学校男子バレーボール部 計124人



② ジュニアトップアスリートスキルアップ講習会

区分	内容
開催日時	11月4日 1部：10時30分～12時30分 2部：14時00分～16時00分
会 場	リージョンプラザ上越2階 コンサートホール
内 容	1部：ジュニアトップアスリートのスキルアップのためのトレーニング 2部：ジュニアトップアスリートを育むための食事づくり
講 師	1部：日本体育大学体育学部体育学科 杉田 正明 教授 2部：日本体育大学体育学部体育学科 安達 瑞保 助教
参加者数	指導者・競技者の保護者・中学生以上の競技者 計85人



日本体育大学体育学部体育学科
杉田 正明 教授



日本体育大学体育学部体育学科
安達 瑞保 助教

上越市第3次総合教育プラン実施計画に基づく令和5年度の取組

(3) スポーツ活動サポート事業

- 小中学校で行われる課外活動及び運動部活動へ、専門的な知識と技術を持つ外部指導者を派遣し、競技力の向上を目指す。

区分	派遣依頼種目	実施状況
小学校	水泳、陸上、クロスカントリースキー（3種目）	4校27回
中学校	サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトテニス、剣道、ソフトボール、卓球、軟式野球、クロスカントリースキー、陸上（10種目）	17校843回

(4) スポーツ指導者が地域で活動できる環境整備

・コーチング研修会の開催

スポーツ指導者を対象に、児童生徒の発達特性やハラスメント等、指導上の留意点について学ぶ機会を提供することで指導者の資質の向上を図り、保護者が安心して指導を任せられるクラブの育成をめざす。

区分	第1回	第2回
開催日時	5月28日（日）9時00分～12時00分	12月10日（日）9時00分～12時00分
会場	高田城址公園オーレンプラザ ホール	春日謙信交流館
内容	ハラスメントに配慮した指導方法と13歳～15歳（中学生）との関係構築	トレーニング論（体力のトレーニング、心のトレーニング）、スポーツと栄養
講師	上越教育大学 土田 了輔 教授	上越教育大学 松浦 亮太 准教授 池川 茂樹 准教授
受講者数	28団体92人	33団体65人

・上越市地域クラブフェア

小中学生を対象とした、地域クラブを開催しようと考えている団体が一堂に会してブースやチラシを通じた活動紹介を展開することで、小中学生と地域クラブの各団体とのマッチングを図った。

区分	第1回	第2回
日時	4月22日（土）10時00分～16時00分	11月11日（土）10時00分～16時00分
会場	リージョンプラザ上越 インドアスタジアム	リージョンプラザ上越 インドアスタジアム、アイスアリーナ
参加団体	37団体（スポーツ団体33、文化団体4）	36団体（スポーツ団体29、文化団体3、その他団体4）
来場者数	1,536人 （内訳：大人630人、子ども906人（中学生500人））	2,138人 （内訳：大人1,193人、小・中学生823人、幼児・高校生122人）

インドアスタジアムの様子



スケート体験の様子



プラン4 スポーツの振興

取組4-2 スポーツ環境の充実

□ 目標

スポーツ施設が適正に配置され、安全で快適にスポーツができる環境を整備する。

1 体育施設整備事業

□ 成果指標

評価内容	令和5年度 目標値	3月末時点 達成状況
体育施設の1施設当たりの年間延べ利用者数		
【体育館】 直近5年の平均利用者数以上	20,253人/施設	18,858人/施設
【野球場】 直近5年の平均利用者数以上	6,192人/施設	6,442人/施設
【多目的広場】 直近5年の平均利用者数以上	5,319人/施設	4,995人/施設
【テニスコート】 直近5年の平均利用者数以上	5,363人/施設	7,917人/施設
計	37,127人/施設	38,212人/施設

□ 評価

- ・1施設あたりの利用人数は、3月末時点において、体育館18,858人（目標値の93%）、野球場6,442人（目標値の104%）、多目的広場4,995人（目標値の94%）、テニスコート7,917人（目標値の148%）であり、体育館・多目的広場は目標を下回ったが、野球場・テニスコートは目標を達成することができた。施設全体では、38,212人（目標値の103%）の結果となっている。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、全体的にコロナ禍前の利用者数に戻ってきている。
- ・しかし、体育館については、1月1日に発生した能登半島地震の影響により総合体育館、清里スポーツセンターなど複数の体育館において被害があり利用休止としたことが目標達成に至らなかった主な要因と考えられる。
- ・総合体育館はアリーナ天井の換気ダクト振り止め金具の脱落により3月10日までの67日間、清里スポーツセンターは、アリーナ天井スピーカーの部品脱落により2月7日まで35日間利用休止とし復旧工事を実施した。また、浦川原体育館はアリーナ天井金具が脱落し30日間、三和体育館はアリーナ天井の断熱ボードが脱落し7日間利用休止とし復旧工事を実施した。
- ・多目的広場については、野球・サッカーが主な利用団体であり、利用団体数を令和4年度と5年度で比較すると、野球のチーム数は変わらないが、サッカーについては、56チームから51チームとなり5チーム減少している。また、スポーツ協会加盟の団体会員数で比較すると令和4年度から5年度で野球は、2,585人から1,748人と837人減少していることから「地域クラブフェア」を活用した会員増加を図っていく。
- ・利用実態やニーズの変化などを踏まえ、安全で快適にスポーツができる環境を整備する。

□ 目標を達成するための事業等

- 体育施設の整備・修繕費、備品購入費
- ・主な施設整備事業

工事名	実施内容	実施状況
上越総合運動公園テニスコート人工芝張替え工事	A5～8コート、B5～8コートの人工芝張替え	令和5年12月完了
高田城址公園野球場照明不点改修工事	ナイター照明の配線、照明器具の取替	令和5年12月完了
柿崎総合体育館ガスヒートポンプエアコン更新工事	室外機及び室内機の更新	令和6年1月完了
安塚B&G海洋センタープール上屋膜体取替工事	膜体及び取付金具の取替	令和5年10月完了
三和体育館バスケットゴール更新工事	バスケットゴールの取替	令和5年8月完了
高田城址公園庭球場（第三）擁壁クラック改修及び塗装工事	擁壁のクラック補修・塗装	令和5年10月完了
藤野野球場内野改修工事	土の補充、ホームベース等の取替	令和5年9月完了
高田城址公園弓道場射場照明修繕工事	照明器具のLED化	令和5年11月完了
柿崎総合運動公園野球場外野フェンスカバー設置工事	フェンス笠木に黄色カバーを設置	令和5年10月完了
安塚B&G海洋センタープール照明LED化工事	照明器具のLED化	令和5年7月完了
清里スポーツ公園グラウンドBコートバックネット改修工事	バックネットのかさ上げ	令和5年8月完了

・主な備品整備事業

品名	施設名	実施状況
ランニングタイム表示機・操作盤	高田城址公園陸上競技場	令和5年9月完了
バレーボール用具（支柱、支柱カバー、アンテナ等）	高田スポーツセンター、大島多目的ホール、清里スポーツセンター、三和体育館	令和5年10月完了
木製レイキ、コートブラシ、ラインカー	総合運動公園テニスコート、スポーツ公園多目的広場ほか	令和5年8月完了
AED：7台	びょうぶ谷野球場、直江津海岸ビーチバレーコート、柿崎第1庭球コート、大潟運動広場ほか	令和5年7月完了
音響設備	三和体育館	令和5年7月完了
トラクター用バイプロレイキ、集塵機	高田城址公園野球場	令和5年9月完了
乗用草刈り機用集草アタッチメント	大潟運動広場	令和5年6月完了

上越市第3次教育プランに基づく令和6年度スポーツ振興施策の概要

科目	事業名(予算:単位千円)	概要(予算:単位千円)
保健体育総務費	保健体育総務費 (17,447)	・健康・体力づくり講座等の開催 ・地域クラブ活動コーディネーターによるスポーツ団体と中学校との連絡調整及び指導者の派遣 ・レルヒ少佐顕彰会の開催
	スポーツ推進審議会 (145)	・第3次上越市総合教育プランに基づくスポーツ施策に関する調査・審議(14人の委員を選任し年3回開催)
	スポーツ推進委員 (5,077)	・市体力測定会、出前講座等地域と連携したスポーツ機会の提供 ・スポーツ推進委員会議(年3回) ・スポーツ推進委員スキルアップ研修会の実施(年2回)
体育振興費	学校体育施設開放事業 (11,521)	・小中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で市民に開放する。
	少年スポーツ活動育成事業 (37,737)	・上越市スポーツ少年団補助金
		・ジュニアトップアスリート育成強化事業補助金
		・地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金
		・ジュニアスポーツクラブ補助金
		・居多まつり武道大会補助金
		・上田市交流事業「野球の日」野球大会出場事業
		・上越市指導者謝金補助金
		・上越市指導者資格取得補助金
		・コーチング研修会の開催
		・地域クラブフェアの開催
	・日本体育大学との連携事業	
	・【新規】地域独自の予算事業 高田地区	
	一般スポーツ活動推進事業 (50,111)	・各種補助事業(27団体+国体出場選手壮行会)
		・スポーツ振興奨励金(全国、世界大会対象)
・ファミリー綱引大会		
・地域独自の予算事業 高土地区・直江津地区・有田地区・浦川原区・柿崎区・板倉区		
地域スポーツクラブ育成事業 (8,386)	・スポーツ活動サポート事業(小中学校への部活動指導者の派遣事業)	
	・総合型地域スポーツクラブの育成	
東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業 (3,399)	・パラスポーツ体験事業の実施(小中学校対象)	
	・オリンピック交流事業の実施	
	・【新規】ドイツチーム合宿受入れ事業(柔道・体操)	
	・ドイツホストタウン記念大会補助金(ホストタウンを記念した、柔道及び体操競技大会の実施)	

科目	事業名(予算:単位千円)	概要(予算:単位千円)
体育施設費	体育施設整備事業 (389,139)	・大湊体育センター大規模改修工事
		・高田スポーツセンター照明器具 LED 化工事
		・大島多目的ホール体育館他照明器具LED化工事
		・柿崎総合体育館ガスヒートポンプエアコン更新工事
		・柿崎運動公園野球場照明器具 LED 化工事
		・吉川体育館照明器具LED化工事
		・清里スポーツセンターアリーナ照明器具LED化工事
		・スポーツ公園野球場バックネット更新工事
	・総合運動公園クラブハウスエアコン設置工事	
	体育施設管理運営費 (376,332)	・高田城址公園野球場スコアボード修繕
		・教育プラザ多目的広場外野防砂ネット更新
		・上越体操場「ジムリーナ」非常用照明器具バッテリー交換修繕
		・安塚 B&G 海洋センタープール浄化装置ポンプ吐出管等修繕
		・大島多目的ホールステージ緞帳修繕
		・清里スポーツセンター会議室空調設備更新工事
		・三和体育館アリーナ仕切りネット修繕
		・ビーチバレーコート整地等業務委託
		・高田城址公園野球場等 18 施設の指定管理業務委託
		・安塚 B&G 海洋センター管理業務委託
		・浦川原体育施設管理業務委託
		・牧体育館管理業務委託
		・柿崎総合運動公園野球場等 5 施設の指定管理業務委託
		・大湊体育センター管理業務委託
		・頸城 B&G 海洋センター機械室各種機器保守点検業務委託
		・吉川野球場芝養生管理業務委託
		・中郷区体育施設受付・周辺維持管理業務委託
		・板倉区スポーツ施設の除草・冬囲い業務委託
・清里スポーツセンター等管理業務委託		
・三和区体育施設管理業務委託		
・上越体操場「ジムリーナ」及び大湊体操アリーナ管理業務委託		
・上越体操場「ジムリーナ」体操器具保守点検業務委託		
・高田城址公園陸上競技場スリットビデオシステム更新		

令和5年度 第2回上越市スポーツ推進審議会後の調査結果

1 [年齢別] 会員制で運営する8の総合型地域スポーツクラブ※の会員数(単位:人)

区分	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
6歳以下	16	16	32	8	8	16	7	6	13
7歳～12歳	402	241	685	396	233	705	351	207	614
13歳～15歳	169	89	265	178	70	253	172	102	278
16歳～18歳	39	20	59	26	15	41	26	12	38
18歳～60歳	295	281	648	275	229	567	252	237	555
60歳以上	233	381	626	204	360	576	210	359	585
合計	1,154	1,028	2,315	1,087	915	2,158	1,018	923	2,083

※安塚、浦川原、柿崎、大潟、頸城、板倉、三和、名立

2 他市におけるスポーツ協会及び総合型地域スポーツクラブの会員数(単位:人)

区分	スポーツ協会	総合型地域スポーツクラブ	合計	人口割	人口
新潟市		750	750	0.1%	770,317
長岡市			0	0.0%	257,716
上越市	10,115	11,696	21,811	12.0%	181,386
糸魚川市	5,954		5,954	15.4%	38,655
妙高市		2,883	2,883	9.7%	29,801
柏崎市	4,386	120	4,506	5.8%	77,227
十日町市	2,566	367	2,933	6.1%	47,949

※ データ収集なし

※ 組織なし